

こどもソーシャルワークセンターのあゆみ

2012年度に京都市山科区に独立型社会福祉士事務所「幸重社会福祉士事務所」としてスタートをして、2016年度に大津市に移転。2018年にNPO法人こどもソーシャルワークセンターとして法人化しました。

活動年表

2018 1月 特定非営利活動法人 こどもソーシャルワークセンター設立総会（3月9日法人設立）

2月 『まちの子どもソーシャルワーク』出版

4月 「ほっとるーむ」が大津市子ども家庭相談室と共同実施開始

5月 若者たちの居場所「まちなかほっとるーむ／まちなか合宿」開始（2021年度まで）

5月 高校内居場所カフェ「大津清陵高校ほっとルーム」開始 P.12



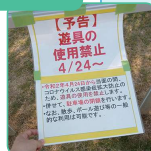
82日開催、のべ337人の
子どもたちを朝から晩まで
受け入れをしました。

2020 1月 内閣府主催「子供の貧困対策に関する有識者会議」に招聘

3月 新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う緊急事態宣言・学校休校時の緊急受け入れ事業（2020.5まで）

4月 夜の子どもたちを支えるアウトリーチ事業：こどもの未来応援基金（2021.3まで）

4月 生きづらさを抱える若者たちによるアウトリーチ事業：休眠預金活用助成金（2022.2まで）



2021 4月 立命館守山中学校・高校へのソーシャルワーカー派遣開始 P.14

4月 「トワイライトステイ」「ほっとるーむ」が
大津市の子どもの居場所事業として統合

2022 3月 生きづらさを抱える若者たちを支える「ユースホーム事業」： 休眠預金活用助成金（2023.2まで） P.09

7月 「ヤングケアラー支援事業」開始：
滋賀県ヤングケアラー支援体制強化事業 P.11



2023 5月 高校内居場所カフェ「瀬田工業高校なごみカフェ」開始 P.12

2024 4月 比叡山中学校へのソーシャルワーカー派遣開始 P.14

NPO法人化以前の活動

2012 4月 独立型社会福祉士事務所「幸重社会福祉士事務所」設立（京都市山科区四宮）

2014 3月 龍谷大学町家キャンパス「龍龍」（大津市）で、夜の居場所「トワイライトステイ」開始 P.07

5月 内閣府主催「子どもの貧困対策に関する検討会」に招聘

12月 社会貢献型の就労支援プログラム「ジョブキャッチ」開始（2021年度まで）

2015 4月 滋賀の縁創造実践センター「淡海子ども食堂」「フリースペース」ワーカー派遣（2017年度まで）

2016 4月 事務所移転（滋賀県大津市観音寺）通称を「こどもソーシャルワークセンター」に

8月 センターで日中の子どもの居場所「ほっとるーむ」開始 P.08

11月 センターで子ども食堂「eatalk」開始 P.09

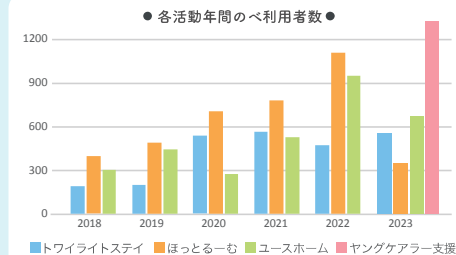
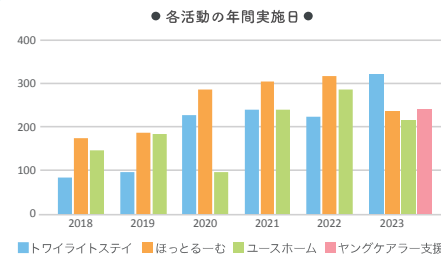


大家さんの好意で
建物をリフォーム



活動日・利用者のべ人数グラフ

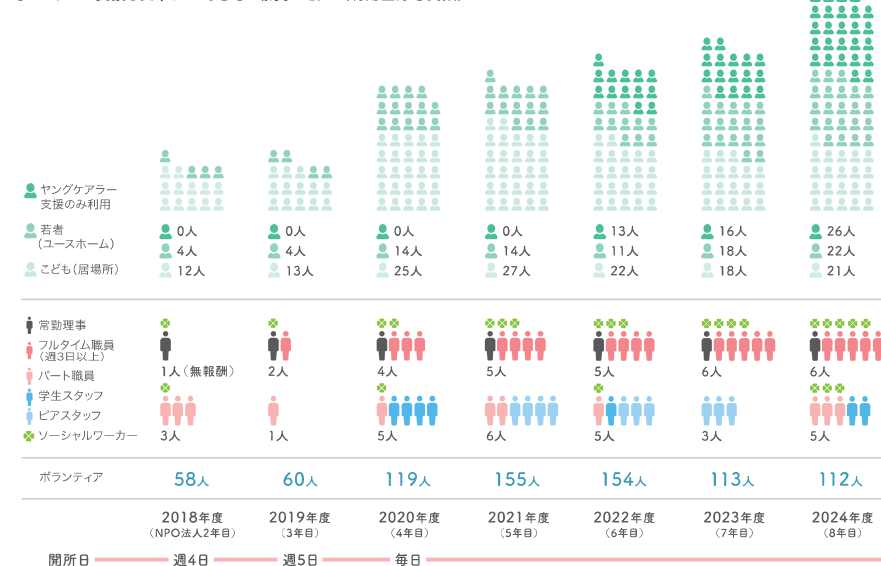
コロナ禍以降は、ほぼ毎日センターを開けてこども若者を受け入れています。若者向けの就労支援メニューが、2020年度からはジョブキャッチと呼ばれる軽作業を行う中間就労プログラムと入れ替わって、ピアスタッフとして若者を雇用したことから、若者向けの活動日やのべ利用者数が一度急減しています。2022年度途中からヤングケアラー支援がはじまり、2023年度からほっとるーむ・ユースホームの活動の一部がヤングケアラー支援に移りました。



利用登録者数と職員数の変化

こどもソーシャルワークセンターでは、センターを利用するこども若者一人ひとりと丁寧に関わっていききたいという思いから、利用することも若者の数を調整しながら受け入れを行っています。コロナ禍までは職員数も少なかったことから20名までの受け入れでしたが、職員数の増加とともに受け入れの数を増やしています。また専門職であるソーシャルワーカーの比率が年々増えてきています。

●センターの支援を受けるこども若者と職員の増加（利用登録者実数）



開所日 週4日 週5日 毎日

2018年度から2020年度までは、大津市生活困窮者自立支援事業子どもの生活学習支援事業と大津市協働提案制度テーマ型提案事業の補助金を活用し、それぞれ週に二日程度子どもたちを受け入れてきましたが、コロナ禍の一斉休校・緊急事態宣言時の自主受け入れをきっかけに毎日子どもたちを受け入れてきました。そして2021年度より「トワイライトステイ」「ほっとる一む」が大津市子どもの居場所事業として統合化され、大津市の制度となりました。

この事業には、福祉や学校などの行政から紹介された小学生から中学生(高校世代)で、しんどさを抱える(保護者の夜間就労、家族の中に病気や障がいや経済的な事情を抱える)家庭やいじめや友だちとの人間関係、先生との関わりなどが学校生活そのものが苦手で学校に行くことが難しい子どもたちが、週に一回程度一軒家であるこどもソーシャルワークセンターでゆっくりすごしています。

一度に受け入れるこどもの数は三名までとして、ボランティアやスタッフなどの大人がそれ以上いる体制で子どもたちは時間を過ごします。安全安心が保障された中で子どもたちは本来の姿や力を出せるようになっていきます。



こどもたちの夕刻を支える夜の居場所

トワイライトステイ



帰りの時間

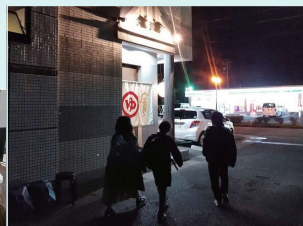
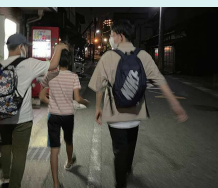
夜も遅い時間なので、必ずスタッフが自宅に送ります。帰り道や帰りの車でボツリと悩みごとを話す子どももいます。また玄関先で保護者の方とお話することも。

お風呂

お風呂は地域の銭湯(歩いて一分)にみんなでいきます。銭湯では地域の人との交流が生まれることもあります。ゆっくり湯船につかっているん話ができる大事な時間。

夕食

夕食は基本的には地域のボランティアさんがつくってくれます。誕生日にはリクエストメニューで、好物が食卓にならびます。天気の良い日はテラスや庭に机を出して食べることも。



日中・休日を過ごす第三の居場所

「ほっ」とる一む

個別活動

学校での苦しかった体験から人と関わるのが不安な子どもたちに対しては、利用者がそのこどもしかいない時間を設定して、センターで安全安心に過ごします。



小集団活動

個別活動で緊張がほぐれてきた子どもたちは、やがて小集団(とはいえ三名程度ですが)に移行していきます。誰かと一緒に楽しいことをする経験を重ねていきます。

休日活動

週末や長期休暇には、トワイライトステイを利用している子どもたちがほっとる一むを利用することもあります。



長期休暇の特別活動

夏休みなど長期休暇に、様々な家庭の事情で旅行や体験活動に参加することが難しい子どもたちに、大事な思い出となる遠足やお泊まり活動を順番に提供しています。また経済的な事情や保護者の忙しさから、多くの子どもたちにとって冬休みのお楽しみになるクリスマスプレゼントやお年玉を家庭でもらえない子どもたちがセンターを利用してこどもの中にいることから、2020年度からセンター応援団の力を借りてクリスマスプレゼントやお年玉を渡すことも行っています。

